



新世代の Sarixメガピクセルカメラのご紹介

Crockett International社 営業・マーケティング ディレクター(日本担当)
 トニー・クラークス氏

Crockett International社

トニー・クラークス氏は7年間、日本のセキュリティ業界における企業クラスのセキュリティシステムに携わってきている。システム構築からコンサルタントまで幅広く活躍し、事務所やデータセンター、物流センターや小売業、また軍事やホスピタリティ業など様々な業種における入退管理システムや監視カメラシステム、機械警備システムの設計を行なってきた。現在、ペルコの独占販売会社Crockett International社で営業およびマーケティング、技術サポートを担当する。(なお、Crockett International社は、2009年9月1日にペルコに統合した)

ペルコは、すべての業界を対象とする映像監視カメラソリューションの設計および開発、製造を担当する世界代表する企業である。そして、高品質な製品と優れた顧客サポートで定評のある同社は、世界で最も優れた製品サプライヤーである。1987年より監視カメラ部門で国際市場を牽引してきたが、2005年には約20年の経験に基づいてIPに方向転換し、IP監視カメラ市場に参入した。同社は業界で最も信頼のできるメーカーとしての地位を確保するため、出荷日保証や24時間対応の技術支援を含む充実した顧客サービスプログラムを設けている。

ペルコのセッションでは、Crockett International社営業・マーケティングディレクター トニー・クラークス氏が登壇した。ペルコは、米国を本社とする監視カメラの世界的大手メーカー。20年以上の経験があり、130以上の国々に製品を提供している。クラークス氏は簡単な会社説明の後、同社の新プラットフォーム、Sarixについて講演を行った。

Sarixプラットフォームは「イメージング技術」、「工業デザイン」、「処理能力および画像解析」の3つが重要視され設計されている。「イメージング技術」は、3.1メガピクセルの解像度への対応、低照度での撮影、正確な色再現などだ。クラークス氏は、「犯罪の起こりやすい夜間にきちんと撮影ができなければ監視カメラとはいえないし、法廷証拠としては正確な色再現が大切だ」と語り、独自アルゴリズムを採用するSarixの能力をアピールした。

また、「工業デザイン」は、ABF(オートバックフォーカス)機能やサービスジャックなどの搭載、PoE給電への対応、Mini SDメモリによるオンボード録画など。メガピクセルカメラは、従来のカメラよりもピントがシビアになる。カバーの取り付けでピントがずれることもあり、ペルコではABF機能により、自動でピントを合わせられるようにした。アナログモニタ出力用のサービスジャックを搭載することで、設置現場で画角を簡単に確認できるようにした。「この2つの機能により、カメラの施工時間を大幅に削減できる」とクラークス氏は自信を見せた。

そして「処理能力と画像解析」は、H.264のハイプロファイルへの対応と、カメラ側で行う画像解析機能だ。画像解析処理をカメラ側で行うことで、ネットワークへの負担軽減を実現した。

続いてクラークス氏は、中小規模から大規模用途まで、Sarixと連携可能な様々なシステムを紹介した。その1つ、「Pelco Enduraネットワークベースソリューション」では、1万台までのカメラにも対応できるという。

最後に、PSIAやONVIFといった標準化について簡単に説明し、「現在評価中ですが、Sarixプラットフォームは必要に応じて対応できる」とコメントし、講演を終了した。

